

二〇一〇年度 一般二月入学試験 二月六日

国 語

〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は31ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

国

語

(60分 100点) (解答番号

1

5

50

)

第一問

次の文章は重松清の小説「青あざのトナカイ」の一節で、かつてこの商店街でピザ屋を営んでいた佐々木雅人が、三河屋の旦那の通夜に参列するために久しぶりに商店街を訪れた場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

お通夜は、予想していたよりずっとにぎやかだった。(1) サイ壇には酒樽が山のように供えられていたし、喪服の上に蔵の法被を羽織った地方の造り酒屋の一行もいた。

旭友会の面々は受付のテントのそばに、石油ストーブを囲んで陣取っていた。会釈だけで通り過ぎようとしたら、ワンカップの日本酒を手にした魚勝の大將に「ちよっと、ピザ屋さんもこっち来て、話聞いてくれよ」と呼び止められた。皆、険しい顔だった。旦那の死を悼むのとは微妙に違う、なにか揉めているような、(2) 惘然とした表情だ。

しかたなく話の輪に入ると、ごぶさたの挨拶をする間もなく、魚勝の大將が酒臭い息を吐き散らかして言った。

「おたくの後がま、ひでえ奴だぜ、おい」

「はあ？」

「ほら、ケーキ屋だよ、なんとかっていう、舌噛みそうな横文字の」

横から八百善のおかみさんが「ル・ヴェール」と忌々しそうに言うのと、みんないっせいに顔をしかめる。

話のいきさつは、なかでは比較的冷静な表情だった青柳豆腐店の長男が教えてくれた。

「明日の告別式なんだけど……商店街でやることになったんだ。ほら、三河屋さんの三軒先に碁会所があるだろ、あそこを借りて、ちよっと手狭なんだけど、やっぱり旦那さん、商店街の『顔』みたいなひとだったんだから……」

旭友会のおやつさんたちの発案だった。東口商店街を支え、商店街をこよなく愛してきた旦那のだから、せめてそれぐらい

のことはさせてもらわないと商店街の人情が疑われてしまう——若旦那にも直談判して、リョウ解を取り付けたのだという。(3)

「金はよぶんにかかっちゃうけどな、やっぱりそれがスジだろう、って魚勝の大将が言ったんだ。若旦那も、わかってくれたよ」

「そりゃそうだろう」魚勝の大将は無然とした顔で言った。「急なことだったから俺もキツくは言わなかったけどよ、こういう混ぜ事ときには、俺たちに相談してくれなきゃよ。もつと早くわかってりゃ、今夜のお通夜だって商店街でビシッとやれたんだから」

すでに昨日から、商店街は喪に服している、らしい。クリスマス・セールは一時中止にして、有線放送の音楽も消している。ふだんのBGMはモダン・ジャズ一本槍の旭茶房でさえ、昨日今日と『アメイジング・グレース』を何度も流したし、魚勝は鯛の仕入れをキャンセルして、明日はリン時休業を決めている。

ところが——明日は『ル・ヴェール』の開店日だった。今日の午後から、店の前には仕入れ業者や主人の修業先だというホテルからの開店祝いの花輪が並んでいる。

魚勝の大将をはじめとする旭友会の有志一同は、せめて告別式の間と出棺のときだけでも紅白の花輪を片づけてくれないかと主人に申し入れた。もしできるなら開店を一日遅らせてくれたら、もつとありがたい、とも。

「……どうだったんですか？」

雅人が訊くと、大将は酒を呷って、「どうもこうもねえよ」と、だみ声をさらにつぶして吐き捨てた。「それはできません、だつてよ」

(5) 雅人は思わず低くうなつた。「ひでえ話たる？ 役所じゃねえんだからな、それくらいの融通を利かせなくて客商売ができる

(7) かってんだ」と大将に言われても、うなづくことも首を横に振ることもできない。

(8) 旭友会の心意気も、わかる。だが、クリスマス・シーズンに合わせて店を開いた『ル・ヴェール』の主人の気持ちも、痛いほどわかる。

「花輪はウチの倉庫で預かるからって言ったんだよ。動かすのも、ウチの若い衆使えばいいんだから、って」

荒井建材の親方が話に割って入り、それを引き取って、旭茶房のマスターがつづけた。

「開店をあさつてにずらしてくればな、はつきり言つて、⁽⁹⁾初手から商店街に貸し一つだろ。向こうにも悪い話じゃねえんだよ。開店を一日延ばしたぶんの損なんて、俺たちがみんなでケーキ買えばすぐに取り戻せるんだ。ウチの店でも、今度から『ル・ヴェール』のケーキを出してもいいんだよ。これから長い付き合いになるんだから、⁽¹⁰⁾そういうのって、目先の損得やメンツよりだいいじなことだと思っただけだなあ……」

それでも、『ル・ヴェール』の主人は、頑として譲らなかつた。

魚勝の大将は酒を呷り、据わった目⁽¹¹⁾でまくしたてる。

「俺たちだって、新しい店ができるのをカン迎してるんだよ。亡くなった三河屋の旦那もな、佐々木さんの前で言うのってナンだけど、宅ハイ⁽¹³⁾ピザ⁽¹²⁾ってのは電話一本で注文するだけだろ、買物のお客さんが増えるような店じゃないよな。でも、今度は一キ屋だから、若い客や家族連れが寄ってくれるようになれば商店街せんたいが活気づく、って楽しみにしてたんだよ、ほんとに。俺たちも応援するさ、明日一日だけ、三河屋の旦那のために譲ってくれば、あとはもう、俺たちみんなで店を盛り立ててやれるんだ。そうだろう？ でもな、もうだめだぞ、あの野郎、ああ、俺はもう許さねえ、あんちきしょう、旭友会からも叩^{たた}き出してやるし、商店街の鼻つまみ者にしてやって……」

よほど悔しかったのか話の途中から地団駄を踏みはじめた大将を、まあまあ、となだめながら、青柳豆腐店の長男は雅人に言った。

「どうしても、開店は明日じゃないとだめなんだつてさ。しょうがないよな、こっちが無理を通すわけにもいかないし」

「大安とか、そういうのですか？」

雅人が店を開いたときは、フランチャイズ本部の指示で——ピザにお日柄は似合わないと思ながらも、大安吉日を選んだのだった。

「違う違う」

長男はかぶりを振って、少し複雑な笑顔になった。

「明日は、息子さんの誕生日らしいんだよ。約束してたらしいんだ、誕生日にお店を開くんだ、って」

「……そうなんですか」

「俺と魚勝の大将がさつき話をつけに行つたときも、息子さん、小学校の一年生か二年生なんだろうなあ、ランドセル背負つたまま、店の中でお母さんといっしょにショーケースを拭いてたんだ。そういうところ見ちゃうとさ、やっぱりなあ、こっちの都

合だけを押しつけるわけにもいかないよなあ……」

⁽¹⁵⁾ 雅人はまた、思わずうなつた。長男も、⁽¹⁶⁾ わかるだろう？ というふうに小さく笑う。

「こら、ピザ屋に豆腐屋、おまえらが納得してどうするんだ、馬鹿野郎」

声を荒らげた大将は、「仏さんの前だよ！」と八百善のおかみさんに⁽¹⁷⁾ 喝されて、酒を取り上げられてしまった。

(重松清『小さき者へ』『青あざのトナカイ』による)

(注) アメイジング・グレース——讚美歌の一つ。

問1 傍線番号(1)・(3)・(4)・(12)・(13)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

1
┆
5

(1)

サイ壇

- ① 話はサイ限なく続いた
- ② ローンの返サイを終える
- ③ 指紋をサイ取した
- ④ 新聞に記事が掲サイされた
- ⑤ 神社でサイ礼が行われる

(3)

リヨウ解

- ① 人々を魅リヨウする歌声
- ② 清リヨウ感あふれる色合い
- ③ リヨウ奇的な犯罪が起こる
- ④ 会社の同リヨウに会う
- ⑤ 精リヨウ流しをする

(4)

リン時

- ① 近リン諸国との良好な関係
- ② 権力の座に君リンする
- ③ 山のリン郭がくつきり見える
- ④ 窃盗は人リンにもとる行為だ
- ⑤ 密リンに住む猛獣を保護する

(12)

カン迎

- ① 新入生を部活動にカン誘する
- ② カン言にのせられて後悔した
- ③ 雄大な景カンに圧倒された
- ④ カン心を買う
- ⑤ 彼はカン容な人だ

(13)

宅ハイ

- ① 人心が荒ハイした世の中
- ② ハイ水の陣で敵に挑む
- ③ 神仏に礼ハイする
- ④ 苦ハイをなめる
- ⑤ 人の気ハイを察知した

問2 傍線番号(2)・(6)・(11)・(14)・(17)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ

つ選びマークしなさい。
6
10

(2) 無然とした表情

6

- ① 不安におびえた表情
- ② 不信感をあらわにした表情
- ③ 不満でやりきれない表情
- ④ 悲しみにくれた表情
- ⑤ 怒っていきりたつ表情

(6) 融通を利かせなくて

7

- ① 正しい判断ができなくて
- ② 年長者の意見を尊重できなくて
- ③ 状況に応じた対応ができなくて
- ④ 地域のしきたりに従えなくて
- ⑤ わずかな気遣いができなくて

(11) まくしたてる

8

- ① 怒りを抑えて静かに諭す
- ② 落ち着いて理路整然と抗議する
- ③ 酔って支離滅裂なことを言う
- ④ 激しい勢いで続けざまにしゃべる
- ⑤ とりとめのない愚痴を繰り返す

(14)

かぶりを振って

9

- ① 頭を前後に振って
- ② 頭を左右に振って
- ③ 頭を横に傾けて
- ④ 首をひねって
- ⑤ 手を左右に振って

(17)

一喝されて

10

- ① やさしくたしなめられて
- ② 大きな声で叱りつけられて
- ③ 口汚くのしられて
- ④ 上手にはぐらかされて
- ⑤ はっきりと拒絶されて

問3

本文の枠囲みの部分（すでに昨日から休業を決めている。）の描写からわかることの説明として、最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

11

- ① 旭友会をこれまで意のままに操ってきた三河屋の旦那の影響力の大きさを示している
- ② 亡くなった三河屋の旦那の人望の厚さと旭友会の団結力の強さを示している
- ③ 個性豊かな旭友会の人々に慕われた三河屋の旦那の風変わりな側面を示している
- ④ 実行力に優れた商店街改革に熱心だった三河屋の旦那を突然失った旭友会の人々の落胆ぶりを示している
- ⑤ 三河屋の旦那の死をも一つのイベントに仕立て上げようとする旭友会の商魂たくましさを示している

問4 傍線番号(5)「雅人は思わず低くうなった」から傍線番号(15)「雅人はまた、思わずうなった」に至る雅人の心情の変化を説

明したものととして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

12

- ① (5)では商店街の意向を無視して自分の流儀を貫き通す主人の傍若無人さにあきれてしまったが、(15)では明日の開店を楽しみにしている息子の姿を想像して主人の判断に賛同したい気分になっている
- ② (5)では商店街との今後の関係よりも明日の開店を優先させる主人の態度を一旦は意外に思ったが、(15)では息子との約束のために明日の開店にこだわっていると知って主人の気持ちも理解している
- ③ (5)では商店街から孤立しても明日の開店を譲ろうとしない交渉下手な主人の態度を冷笑していたが、(15)では家族への愛情から昔気質かたぎな商店街の人々と戦っていたことを知って主人に共感している
- ④ (5)では商店街の申し入れを拒絶して明日の開店にこぎ着けようとする主人のこだわりに敬服していたが、(15)では息子との約束を守る優しい父であることを知らされて尊敬の思いを強くしている
- ⑤ (5)では商店街の古い慣習に縛られず明日の開店を断行しようとする若い主人の今後を憂慮していたが、(15)では息子との約束のためだったと知って主人を応援しようと心に決めている

問5 傍線番号(7)「うなずくことも首を横に振ることもできない」とあるが、それはなぜか。その理由の説明として、最も適切

なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

13

- ① 商店街と『ル・ヴェール』の双方の事情がわかるだけに、どちらの意見にも与^{くみ}することができないから
- ② 大将の話だけを一方的に聞くのでは、『ル・ヴェール』を商店街の仲間として受け入れないことになるから
- ③ すでに商店街を去ったものが、現在商店街を悩ますトラブルに無責任に口を挟むのは失礼だと考えるから
- ④ 商店街の都合を押しつけようとする大将より、内心では『ル・ヴェール』を応援したい気持ちがあるから
- ⑤ 酔ってわめく大将に加勢して『ル・ヴェール』の悪口を言い、人々の怒りをあおるようなことはしたくないから

問6 傍線番号(8)「旭友会の心意気」とあるが、その内容の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマ

クしなさい。

14

- ① 商店街の代表を長く務めてきた人の死を悲しみ、その遺志を継ぐ若旦那を盛り立てたい
- ② 商店街の活性化に功績のあった人をたたえ、商店街主催として告別式を執り行いたい
- ③ 商店街の発展を夢に見てきた人を送るのだから、告別式は商店街が主導して盛大に催したい
- ④ 商店街をこよなく愛してきた人の死を悼み、商店街が一丸となってしめやかに告別式を行いたい
- ⑤ 商店街にとってなくてはならない人の最期を、商店街が協力して静かに看^み取りたい

問7

傍線番号(9)「初手から商店街に貸し一つだろ。向こうにも悪い話じゃねえんだよ」とあるが、それはどういうことか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

15

- ① 『ル・ヴェール』が商店街の言い分を受け入れて開店日をあさってに延期してくれさえすれば、商店街の団結力を示すことになるということ
- ② 『ル・ヴェール』が明日一時的に紅白の花輪を片づけて店を閉めてくれさえすれば、商店街の中で今後優位に立てるといふこと
- ③ 『ル・ヴェール』が商店街の申し出に従って開店日を一日ずらしてくれさえすれば、商店街に一つ恩を売ったことになるといふこと
- ④ 『ル・ヴェール』があと一日だけ開店を待ってくれさえすれば、『ル・ヴェール』の宣伝に商店街をあげて協力するといふこと
- ⑤ 『ル・ヴェール』が三河屋の旦那の喪に服してくれさえすれば、商店街の人々から手厚い援助を受けられるようになるということ

問8 傍線番号(10)「そういうの」とあるが、ここではどのような内容を指していると考えられるか。その説明として、最も適切な

なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

16

- ① 開店を延ばすことで少なくなる売り上げ分のケーキを、商店街の皆で買いに行くこと
- ② 開店をあきらめないで、商店街の皆の理解を得るような次善策を考えること
- ③ 開店を延期して、商店街全体の動きに都合を合わせることに
- ④ 開店を延期して、商店街の店主全員と顔なじみになっておくこと
- ⑤ 開店をずらしてでも、商店街の店で『ル・ヴェール』のケーキが使われるよう働きかけること

問9 傍線部(16)「わかるだろう?」とあるが、それはどういう意味だと考えられるか。その説明として、最も適切なものを、次

の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

17

- ① 旭友会のどんな説得をも拒み続けた、『ル・ヴェール』の主人の賢明さがわかるだろう?
- ② 明日が大安かどうかというお日柄と開店日とは、関係ないということがわかるだろう?
- ③ こっちの都合だけで明日の開店を延期するよう強く迫れなかった、魚勝の大将の気持ちがわかるだろう?
- ④ 開店は息子の誕生日の明日にしたいという、『ル・ヴェール』の主人の気持ちがわかるだろう?
- ⑤ 開店延期の申し出を『ル・ヴェール』にすげなく断られた、魚勝の大将の悔しさがわかるだろう?

問10

本文に登場する人物の言動や心情の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

18

- ① 魚勝の大将は『ル・ヴェール』の主人に開店延期を求めたがかたくなに拒否され、すでに店じまいをしていた雅人にピザ屋を商店街で再開してほしいと思っていた
- ② 荒井建材の親方が『ル・ヴェール』の負担にならない代案を考えて譲歩を求めたが聞き入れられず、このことを知った旭茶房のマスターは憤りをあらわにして『ル・ヴェール』に抗議した
- ③ 青柳豆腐店の長男は『ル・ヴェール』が商店街の意向を受け入れることを望んでいたが、『ル・ヴェール』側の事情も理解しており、明日の開店はやむを得ないと思っていた
- ④ 八百善のおかみさんは『ル・ヴェール』の主人の頑として譲らない態度に腹を立てていたが、自分をさしおいて主人のことを批判する魚勝の大将に嫌気がさしていた
- ⑤ 旭茶房のマスターは店で『ル・ヴェール』のケーキを提供したいと内心考えていたが、開店延期の交渉が平行線であったため他のケーキ屋を探す必要を感じていた

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

数々の科学的発見をしたイ⁽¹⁾大なる生化学者にして細菌学者ルイ・パスツールによれば、発見は偶然の賜物⁽²⁾であるけれども用意された精神にのみ起こるといふ。この考え方は下世話に言う「運も実力のうち」を想⁽³⁾い起こさせる。実力のある人間はチャンスをけつして逃さない。

4 ここに一人の野球選手がいる。彼は練習熱心で将来有⁽⁵⁾ボウなルーキーのだが、あいにく彼の守るポジションには今をときめくスター選手がいてベンチを温めている。こんなあいにくな条件にもめげず彼は黙々と練習に打ち込む。ある試合でそのスター選手が大怪我⁽⁶⁾をする。やむなく監督は控えのルーキーを抜擢⁽⁷⁾した。ルーキーは攻守に大活躍して、スター選手の抜けた穴を立派に埋める。それどころか、そのうち正選手をしのご活躍をするようになった。そしてルーキーはスター選手を押しつけてそのポジションをわがものにする。実力がツキを呼び込んだのだ。もしこの控えの選手に実力がなかったら、用意がととつていなかったら、せつかく転がり込んできた機会を活⁽⁸⁾かすことはできなかったにちがいない。世界のなかにテン⁽⁷⁾在しているチャンスを開かせるのも、その芽を摘んでしまうのも、本人の心がけ次第なのである。

偶然としてのチャンスが上述のようであるとすれば、偶然というものにはばらつきがあることが予想される。出会っているのに見過ごされたり意識されなかったりした偶然が存在するということだ。不発に終わった偶然——われわれの周りにはこの種の偶然がひしめいているはずだ。偶然の出現は関心の強度や意識のアンテナの感度に左右される。このことは日常的経験によっても確かめられる。須賀敦子が興味深い経験を語っている。

本で読んだり道で見たりしたその瞬間には、あ、そうか、ぐらいで済むのだが、どういうものか、それからまもなく、たとえば数日とか数時間、ときには数週間をおいてから、こちらの意志とはまったく関わりなく、ふたたびおなじ事柄に別の本のなかでばったり出会ったり、それが人との会話に出てきたりして、自分ではほとんど忘れかけていた興味なり感動なり

が、再度、喚び覚まされるのだ。

9

いえばぐうぜんなのだろうが、こちらがそんな経験をもったことを知っているはずのない人から、その事柄についての本をもらったたり、こちらが訊ねもしないのに、そのことが相手の口へのぼったりして、えっ、どうしてなの？ と驚く。まるで物事の背後に目に見えないネットワークとか電線がひそかに敷かれていて、それがこちらの興味のおもむく方向を本人である私の知らないまに把握し、支配しているのではないかと疑ってしまうほど、なんともいえない⁽¹⁰⁾キ異の感に打たれるから、「知識は連なってやってくる」といいたくなるほどだ。⁽¹¹⁾どこかで陰謀を練っているヤツらがいるに違いない。

(須賀敦子「ザツテレの河岸で」「地図のない道」)

私にもこれに類した経験がある。だいぶ前の話だが、「セレンディピティー」(serendipity)という語をある本のなかで読んだ。うかつにも私はこの語を知らなかった。小さな辞書にはなかったが、『広辞苑』には「思わぬものを偶然に見出す能力。幸運を招きよせる力」とちゃんと出ていた。一般的とはいえないけれども、ごく特シユ⁽¹³⁾な専門語というわけでもないらしかった。ところが、その後この語にたびたび出くわすようになった。この語を表題にする本も何冊かあったし、驚いたことに若者向け古着屋の店名にも使われていた。セレンディピティーという語を立て続けに目にしたことは確かに不思議といえは不思議だが、ただ私の場合、「えっ、どうしてなの？」とは思わなかった。「どこかで陰謀を練っているヤツらがいるに違いない」なども勘ぐらなかつた。要は意識のもちようの問題だと思っただけからだ。

きつと私は以前にも「セレンディピティー」という語に出会っていたのだろう。

14

まるで関心がなかつたので、気づ

かずにこの語を遣り過⁽¹⁵⁾ぎしていったのだろう。関心が高まってからは意識のアンテナが敏感になり、確実にこの語を捕捉⁽¹⁶⁾するようになった。こちらにくだんの話題に対するこだわり(関心)があるからこそ、それを見たり聞いたりするとその暗⁽¹⁶⁾合にびつくりするが、もしこちらにこだわり(関心)がなければ、その話題はなんの注意を引くこともなく通り過ぎてしまう。関心の網の目の⁽¹⁷⁾によってすくいとられる偶然の数が出てくるのは、けだし当然だろう。偶然というものはかたよるものなの

だ。素晴らしい偶然を逃さないためには、あらかじめ意識のアンテナ（ミクロの視点）の感度を高めておかなければならない。開かれたしなやかな精神には、素晴らしい偶然が舞いこんでくるだろう。

偶然——チャンス・アイデア——をキャッチし、上手に育てあげるには、どうもコツのようなものがあるようだ。それは次の三つにまとめられるだろう。

- ① アバウトなプラン（不確定的目的性）
- ② 我のない謙虚なスタンス（開かれた欲望）
- ③ しなやかな想像力（関係性⇄必然性の発見）

⁽¹⁹⁾ 原理・原則（必然性）の名のもとに偶然的なものを拒否し、囲い込んでしまうことは、自分の生きている世界を制限することである。狭めてしまうことである。心を開き目を凝らして見れば、われわれの周りには多くの人との出会いがあるはずだ。多くの物との出会いがあるはずだ。多くの出来事との出会いがあるはずだ。自分の世界（殻）に閉じこもらず、自分の世界から「出て」、人や物や出来事に「会う」ことが大切だろう。それは⁽²⁰⁾ 出会いを迎えに行くことだと言えるかもしれない。そのようにして出会った多くの出会いのなかから素晴らしい出会いが生まれるだろう。素晴らしい出会いは求めれば得られるという性質のものではないが、求めなければ得られないこともまた確かである。

（野内良三『偶然を生きる思想』による）

問1 傍線番号(1)・(5)・(7)・(10)・(13)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

19
 ↓
 23

(1)

イ大
 19

- ⑤ イ約金を払う
- ④ 経イを説明する
- ③ イ議を唱える
- ② イ業を成し遂げる
- ① イ廠に満ちた態度

(5)

有ボウ
 20

- ⑤ 裁判をボウ聴する
- ④ ボウ我の境地
- ③ 一進一退の攻ボウ
- ② 費用のボウ大化
- ① ボウ外の喜び

(7)

テン在
 21

- ⑤ 事態が進テンする
- ④ ツアーにテン乗する
- ③ 責任のテン嫁
- ② テン罰が下る
- ① 焦テンを合わせる

(10)

キ異
 22

- ⑤ キ発性の液体
- ④ 身のキ険を感じる
- ③ 数キなる人生
- ② キ生虫がつく
- ① キ丈な人

(13)

特シユ
 23

- ⑤ シユ玉の作品
- ④ シユ向を凝らす
- ③ 品シユを改良する
- ② シユ勝な心掛け
- ① シユ従関係を結ぶ

問2 傍線番号(2)・(6)・(15)・(16)・(18)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ

つ選びマークしなさい。
24 ～ 28

(2) 下世話

24

- ① 世間でよく言う言葉
- ② 品のない言い方
- ③ おせっかいなこと
- ④ あまりに露骨な表現
- ⑤ 人をねたんで言う言葉

(6) やむなく

25

- ① 不公平ではあるが
- ② 不手際のため
- ③ 本意ながら
- ④ 不都合なことに
- ⑤ 不合理にも

(15) くだんの

26

- ① 流行の
- ② 日常的な
- ③ 決まりきった
- ④ 例の
- ⑤ 注目している

(16) 暗合

27

- ① 思いがけない一致
- ② 予想以上の出来栄え
- ③ 意外なおもしろさ
- ④ ひそやかな企て
- ⑤ 不当な巡り合わせ

(18) けだし

28

- ① かえって
- ② まさしく
- ③ いわば
- ④ たとえば
- ⑤ なおさら

問3 傍線番号(3)「実力のある人間はチャンスをつかして逃さない」とあるが、それはなぜか。その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

29

- ① 実力のある人間は普段から力を発揮する機会を狙っており、チャンスとなれば必死でしがみつくから
- ② 実力のある人間は常に準備をととのえており、いつチャンスが転がり込んできてもそれを活かせるから
- ③ 実力のある人間は強大な運を持っており、どんな悪条件にあらうと最終的にはチャンスをつかめるから
- ④ 実力のある人間はいつでも心構えができており、チャンスがめぐると平常心を保って実力が出せるから
- ⑤ 実力のある人間はなぜか運にも恵まれており、懸命に努力していると必ずチャンス呼び込めるから

問4 空欄番号 [4] ・ [9] ・ [14] に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つ

ずつ選びマークしなさい。ただし、重複は避けること。

[30] [4]

[31] [9]

[32] [14]

- ① たとえば
- ② つまり
- ③ あるいは
- ④ しかも
- ⑤ でも

問5 傍線番号(8)「不発に終わった偶然——われわれの周りにはこの種の偶然がひしめいているはずだ」とあるが、それはどう

いうことか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

33

- ① 何度も同じ事柄に出会っていながら、遣り過ごしていくうちに偶然ではなくなる偶然があるということ
- ② 人生を左右する重大な事柄に出会った際にも、自分の関心が薄いために軽視される偶然があるということ
- ③ そこに以前からあり続けているのに、誰にも気づかれない偶然があるということ
- ④ 自分がもともと関心を持っていないため、感知されない多くの偶然があるということ
- ⑤ 一度出会ったことのある事柄でも、その価値を意識していない時には二度と出会うことのない偶然があるということ

問6 傍線番号(1)「どこかで陰謀を練っているヤツらがいるに違いない」とはどういうことか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

34

- ① 短い期間の中で類似したある事柄に出会うという経験が何度も繰り返されるので、誰かが自分の行動を制限しようとしているように感じたということ
- ② 以前感動したある事柄に再会し感動が打ち消されるといふ経験が重なるので、誰かがこっそりと自分の気持ちを支配しているように感じたということ
- ③ すでに興味を失ったある事柄に無理やり出会わされる経験が重なるので、誰かが強制的に自分に知識を教え込もうとしているように感じたということ
- ④ 一度興味を持ったある事柄に再度出会うという経験があまりに繰り返されるので、誰かがわざと自分の興味を方向づけているように感じたということ
- ⑤ 自分が意識し始めたある事柄に望まずとも出会うという経験が幾度も重なるので、誰かが自分を混乱させようとしているように感じたということ

問7 傍線番号(12)「これに類した経験」とあるが、「これ」が指しているのはどのようなことか。その説明として、最も適切な

ものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

35

① 本で読んだ瞬間にはそれほど気にしていなかった事柄が、何らかのきっかけで後になって鮮明によみがえってくるようなこと

② 初めて出会った時には意識していなかった事柄が、意識するようになった途端たびたび自らの目の前に出現するように感じられること

③ こちらから訊ねもしない事柄が、「私」の気づかないまま人との会話で話題に上るよう何らかの形で操作されていること

④ 出会っているのに見過ごされたり意識されなかったりした事柄が、関心の強度を自ら上げることによって常に脳裏に浮かぶようになること

⑤ 出会った時には関心のなかった事柄が、様々な媒体で主体的に調べていくうちに興味ある対象に位置づけられるようになったこと

問8 空欄番号

17

に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

36

- ① 前後 ② 多寡 ③ 精粗 ④ 正誤 ⑤ 明暗

問9

傍線番号(19)「原理・原則(必然性)の名のもとに偶然的なものを拒否し、囲い込んでしまうことは、自分の生きている世界を制限することである」とはどういうことか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

37

- ① 偶然起こる多くの物事との出会いを排除し続けた結果、必然的な物事しか信用できない功利的な人間になってしまうという事
- ② 原理・原則にとらわれて突発的なものを拒否した結果、次第に感情の豊かさを喪失し、人間関係をそこなってしまうという事
- ③ 日々偶然起こる人や物との出会いを否定し、自分になじみのあるものの中だけで暮らした結果、世界を広げる機会を逸してしまうという事
- ④ 身の回りで起こる人や物との出会いから身を守り続けた結果として、孤独で寂しい人生を送ることになってしまうという事
- ⑤ 身の回りの多くの人や物などとの出会いを受け入れずにいた結果、人生を大きく変えるような歴史的に重大な発見につながる可能性を狭めてしまうという事

問10 傍線番号⑳「出会いを迎えに行く」とはどういうことか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ

選びマークしなさい。

38

- ① 自分が暮らしている狭い国を飛び出すことにより、自分との出会いを求めている人を探すということ
- ② 出会いを求め続けることで、あらかじめ用意された出会いだけは逃さないようにするという事
- ③ しなやかな心で様々な事物に興味を抱きながら、多くの出会いから自分にふさわしいものを選ぶということ
- ④ 自分の感受性を大切にしつつ、人や事物との有意義な出会いを自分なりの観点で選ぶということ
- ⑤ 心を開いて外の世界に関心を持つことにより、積極的に人や事物との出会いをつかむということ

問11 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

39

- ① 「運も実力のうち」という言葉に示されているように、実力がつくかどうかどうかも結局は運次第である
- ② 人が意識や関心をどのように持つかで、偶然舞いこんでくるチャンスの数は変わってくるものだ
- ③ 気に留めていなかった言葉が人に言われた途端に気になるということは、日常的に経験することだ
- ④ 注意を引きつける珍しい単語は印象に残りやすいので、一度出会えばもう二度と忘れることはない
- ⑤ 必然性を排して偶然の出会いにばかり頼ってはいけません、本物の素晴らしい出会いなど期待できない

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(20点)

今は昔、多氣の大夫といふ者の、常陸より上りて愁へする頃、向かひに越前の守といふ人の許に、逆修しけり。この越前の守は、伯の母とて、世にめでたき人、歌詠みの親なり。妻は伊勢の大輔、姫君たちあまたあるべし。多氣の大夫、つれづれにおぼゆれば、聴聞に参りたりけるに、御簾を風の吹き上げたるに、なべてならず美しき人の、紅の単襲着たるを見るより、「この人を妻にせばや」と、いりもみ思ひければ、その家の上童を語らひて問ひ聞けば、「大姫御前の、紅は奉りたる」と語りければ、それに語らひつきて、「我に盗ませよ」と言ふに、「思ひかけず。えせじ」と言ひければ、「さは、その乳母を知らせよ」と言ひければ、「それはさも申してむ」とて知らせてけり。さて、いみじく語らひて、金百両取らせなどして、「この姫君を盗ませよ」と責め言ひければ、さるべき契りにやありけむ、盗ませてけり。

(7) やがて、乳母うち具して、常陸へ急ぎ下りにけり。後に泣き悲しめど、かひもなし。程経て、乳母おとづれたり。あさましく、心憂しと思へども、言ふかひなき事なれば、時々うちおとづれて過ぎけり。伯の母、常陸へかく言ひやり給ふ。

(9) 匂ひきやみやこの花は東路に東風の返しの風につけしは

(10) 返し、姉、

吹き返す東風の返しは身にしみきみやこの花のしるべと思ふに

(『古本説話集』による)

(注1) 愁へ——訴訟。

(注2) 逆修——死後の安樂のために生前に行う仏事。

(注3) 聴聞——ここでは、逆修に参加して、読経を聞くこと。

(注4) 上童——奥向きの仕事をする童女。

問1 傍線番号(1)・(2)の文法的説明として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

い。 40

・ 41

(1) つれづれにおぼゆれ

40

- ① ナリ活用形容動詞の連用形十ヤ行下一段活用動詞の已然形
- ② ナリ活用形容動詞の連用形十ヤ行下二段活用動詞の已然形
- ③ 副詞十ヤ行下二段活用動詞の命令形
- ④ 名詞十格助詞十ヤ行下一段活用動詞の命令形
- ⑤ 名詞十格助詞十ヤ行下二段活用動詞の已然形

(2) 着たる

41

- ① カ行上一段活用動詞の連用形十存続の助動詞の連体形
- ② カ行上二段活用動詞の連用形十存続の助動詞の連体形
- ③ タ行上一段活用動詞の未然形十尊敬の助動詞の連体形
- ④ タ行四段活用動詞の未然形十尊敬の助動詞の連体形
- ⑤ タ行四段活用動詞の未然形十存続の助動詞の連体形

問2 傍線番号(3)・(6)の解釈として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

42

43

(3) 紅は奉りたる

42

- ① 紅の単襲をお与えくださった
- ② 紅の単襲を差し上げなされた
- ③ 紅の単襲をお召しになっている
- ④ 紅の単襲の人を存じ上げている
- ⑤ 紅の単襲の人を参上させた

(6) さるべき契りにやありけむ

43

- ① 多氣の大夫は聴聞に参上して妻になる伯の母を見つけることになるという、前世からの約束だったのだろうか
- ② 信仰心の深い多氣の大夫が逆修に参上して伯の母を手に入れるという、仏から授かったご縁だったのだろうか
- ③ 多氣の大夫が大姫御前を盗む手助けを必ずするという、乳母と多氣の大夫との固い約束だったのだろうか
- ④ 大姫御前は多氣の大夫と結婚すると幸せになるに違いないという、乳母の予感だったのだろうか
- ⑤ 乳母が多氣の大夫を大姫御前に会わせることになるという、前世からの因縁だったのだろうか

問3 傍線番号(4)「思ひかけず。えせじ」とあるが、この時の上童の心情の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中か

ら一つ選びマークしなさい。

44

- ① 一度は断つて多氣の大夫の本心を確かめようとする気持ち
- ② 奥向きの仕事以外のことはしてはいけないという気持ち
- ③ 無理なことを引き受けてしまったと後悔する気持ち
- ④ 承諾できるはずのない多氣の大夫の要求に驚く気持ち
- ⑤ 意外なことを打ち明けられて多氣の大夫に同情する気持ち

問4 傍線番号(5)「語らひて」とあるが、誰が、誰に「語ら」ったのか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマ

クしなさい。

45

- ① 多氣の大夫が、乳母に
- ② 多氣の大夫が、上童に
- ③ 上童が、乳母に
- ④ 乳母が、上童に
- ⑤ 乳母が、多氣の大夫に

問5 傍線番号(7)・(8)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマーク

しなさい。

46

47

(7)

やがて

46

- ① 突然
- ② まもなく
- ③ しばらくして
- ④ 案の定
- ⑤ ついに

(8)

おとづれたり

47

- ① 声を立てて嘆いた
- ② 訪問した
- ③ 慰めた
- ④ 便りをよこした
- ⑤ 帰ってきた

問6

(9)・(10)の和歌についての説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

48

- ① (9)の、都の花の香を西風に乗せて東国にいるあなたに送り届けたという歌に対し、(10)は、懐かしい都の花にゆかりのある西風が吹くとしみじみとした思いになると答えている
- ② (9)の、春風に揺れる花を見ると花のように美しかったあなたを思い出すという歌に対し、(10)は、常陸では春風も強く吹くので都の春が懐かしく思い出されると答えている
- ③ (9)の、春の東風が吹いてもあなたから便りがこないで生きた心地がしないという歌に対し、(10)は、常陸では東風が吹くのが遅いから便りも遅くなったと答えている
- ④ (9)の、仲の良かったあなたと突然の運命で引き裂かれてしまったので恨めしいという歌に対し、(10)は、姉妹の縁は花と風のように切っても切れないものだと答えている
- ⑤ (9)の、自分の贈った花の香で家族や都のことを思い出して返事をしてほしいという歌に対し、(10)は、贈られた花の便りで、家族と過ごした頃を思い出せたと答えている

問7

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

49

- ① 大姫御前の母親は優れた女流歌人の伊勢の大輔で、たくさんいる妹たちのうちの一人が伯の母である
- ② 上童は、多氣の大夫に紅の単襲をもらったあとでうまく言いくるめられて、秘密を話してしまった
- ③ 多氣の大夫に金百両をもらった乳母は、彼の言葉に従って、すぐに彼の気持ちを大姫御前に伝えた
- ④ 大姫御前はどうしようもなかったので、乳母を伴って、急いで多氣の大夫について常陸に行くことにした
- ⑤ 後に残された越前の守たちは、大姫御前の身の上をつくづく情けないと思ったが、どうしようもなかった

問8 『古本説話集』は平安時代に成立した説話集であるが、同じジャンルの作品として、適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

50

- ① 太平記
- ② 愚管抄
- ③ 十訓抄
- ④ 性霊集
- ⑤ 三冊子